

野球長く続けてほしい——

「検診手帳」本県で刊行



A5判の野球検診手帳は、けがを予防するためのウォーミングアップやクールダウンの仕方などを分かりやすく紹介している

伸び盛りの野球少年の教本とも言うる冊子が今春、県内で誕生した。その名も「野球検診手帳」(弘前大学出版会発行)には、けがをしないための正しいストレッチや投球フォーム、応急処置の方法などが専門的な見地で記されており、関係者は「選手から指導者まで、野球をやっている

医師、元プロ選手ら執筆・編集

けが予防 分かりやすく



受診を参考にスムーズな診察が行える工夫も盛り込んだ。また、プロ野球日本ハムファイターズで投手として活躍、昨年12月まで弘前市職員を務め、現在は日本野球機構に籍を置く今関勝さん(48)も執筆者に名を連ねた。肘や肩に負担の少ない投球フォームの在り方などを記したほか、医療用語など難しい単語を分かりやすい表現に置き換えるようにアドバイスしたという。

今関さんは「どんなに良い本を作っても、小中学生や高校生が理解できなかったら意味がない。この手帳は分かりやすく伝えており、熱い思いも詰まっている」と太鼓判を押す。

監督に携わった県高野連の高橋聡理事長も「野球を長く続けるための必須アイテム。野球人口増加への一助となるのでは」と内容を高く評価した。

手帳は1冊350円(税別)で約4千部発行。県内書店のほか、弘前大学生協ホームページからも購入できる。

(安達一将)

※この記事は東奥日報社の提供です。

[問合せ先] 弘前大学出版会

hupress@hirosaki-u.ac.jp

この画像は、当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。